

# 第3回日本平公園基本計画改定専門委員会

○日 時:令和7年2月18日(火) 14:00~

○場 所:静岡市歴史博物館 講座室

## 次 第

### 1. 開会

### 2. 議題

- (1) 第2回改定専門委員会の主な指摘事項について
- (2) アンケート調査結果の概要について
- (3) 議事
  - ① 基本計画改定の方向性の検討について
  - ② 導入機能・施設とイメージ案について
  - ③ 空間の骨格構成について

### 3. 閉会あいさつ(静岡市緑化政策担当部長)

### 4. 閉会(16時00分頃)

#### □配布資料

- 次第      ○ 委員名簿      ○ 席次表      ○ 資料1~資料9

次回(第4回)開催 : 令和7年6月5日(木)午後

第3回 静岡市日本平公園  
基本計画改定専門委員会

令和7年（2025年）2月18日



富士山

三保半島

所在地 静岡県静岡市清水区草薙・馬走・村松地内（国指定名勝日本平、日本平自然公園を含む）  
計画面積 都市計画決定面積 88.5ha（2024年から基本計画改定予定のため情勢に応じた変更の可能性あり）  
基本テーマ 「風景美術館＝日本平」  
公園特徴 四方の眺望に優れ、特に清水越しに富士山を望む眺望点として古くから観光地として栄える  
主な施設 日本平夢テラス（静岡県）、展望回廊、大芝生広場、徳富蘇峰が評した眺望点  
日本平ロープウェイ（㈱静岡鉄道）、日本平ホテル（㈱日本平ホテル）  
周辺施設 久能山東照宮（国宝）、三保松原（世界遺産構成資産）、清水港（世界で最も美しい湾クラブ加盟）、  
登呂遺跡（国特別史跡）  
受賞歴等 観光地百選平原の部1位、日本夜景遺産

都市計画決定範囲 都市公園（風致公園）

IAIスタジアム日本平

久能山東照宮 →

# ◆現況の概要

## 公園概要

- 所在地 清水区草薙・馬走・村松
  - 開園日 平成25年9月9日（静岡市供用）
  - 区域区分 市街化調整区域
  - 公園分類 特殊公園（風致公園）
  - 公園面積 8.88ha（R3年度末時点）
  - 計画面積 基本計画33ha（88.5ha）
  - 都決時期 昭和12年4月9日 告示
  - 基本テーマ 風景美術館＝日本平
  - 主な施設 展望回廊、平原ゾーン、アクセス道路、公園駐車場（第3駐車場：234台）
    - 山頂：身障者用3台
- ※県営駐車場は普通車140台（第1～第3計）と、バス20台が別途供用されている。  
※このほか、日本平ホテルの駐車場を借用する場合があります。
- 令和5年5月 現在

## 整備概要

- 1期整備：平成22年から開始、令和12年完了予定  
アクセス道路、平原ゾーン、展望回廊 など
- 2期整備：令和7年開始予定、令和13年完了予定  
公園第一駐車場、山頂園路
- 3期整備：令和12年開始予定、令和18年完了予定  
公園センターゾーン
- 総工費：100億円（想定）

## 周辺主要施設

### ◆公園内

- 日本平夢テラス（園内、隈研吾氏設計）
- 日本平ホテル（園内）
- 売店等（園内：月日星、川崎屋、お茶会館）
- 日本平ロープウェイ駅、売店（園内）

### ◆周辺

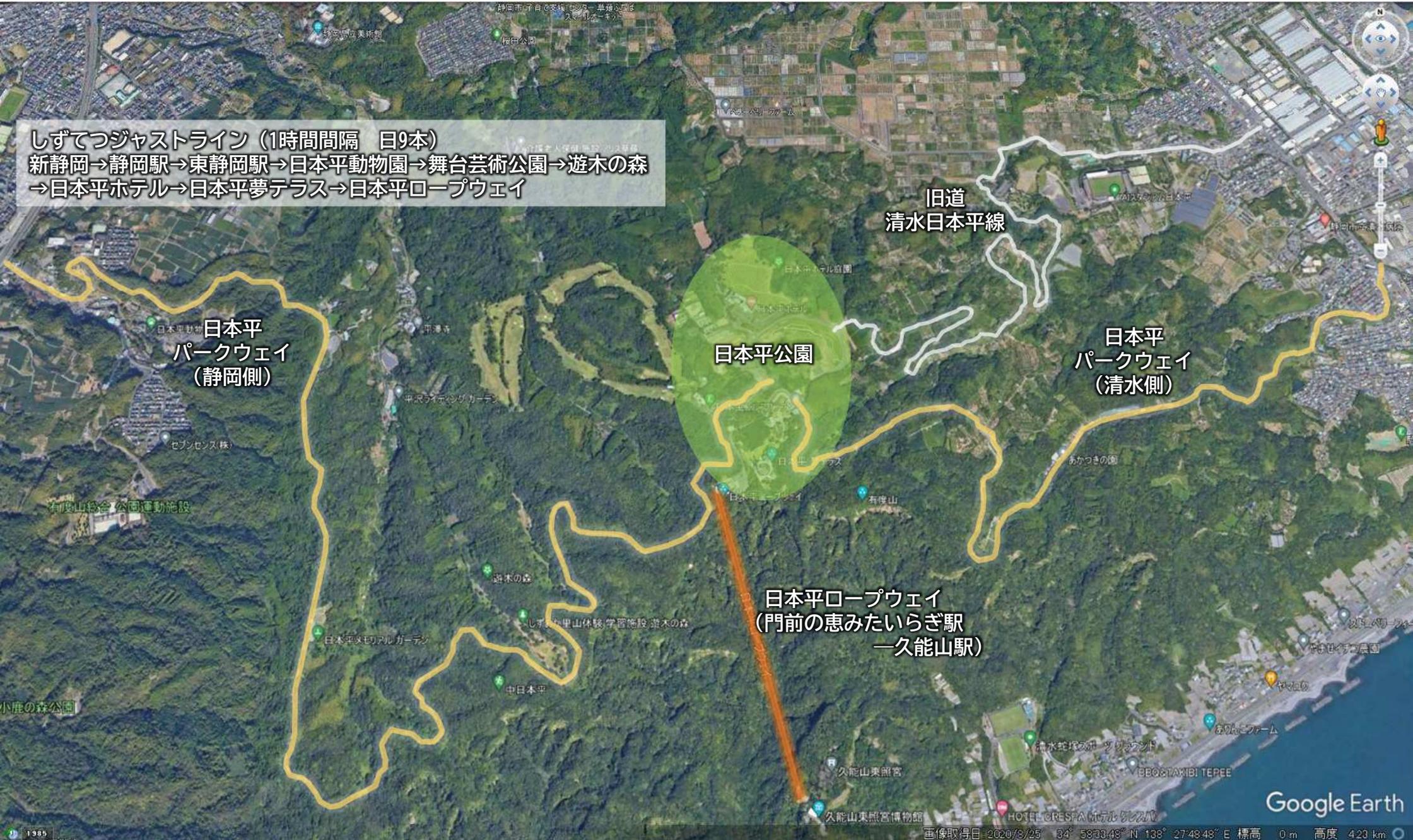
- 久能山東照宮（国宝）
- 石垣イチゴ
- 三保松原（富士山世界文化遺産構成資産）
- 清水港（三大美港、大型客船寄港）
- 日本平動物園（レッサーパンダ）
- 日本平スタジアム（清水エスパルス フランチャイズ）
- 駿府城址
- 登呂遺跡

## 日本平にまつわる逸話、受賞歴など

- 日本武尊伝説
- 徳富蘇峰による4か所の眺望点（昭和10年）
- 赤い靴物語（野口雨情）
- ちゃつきり節（北原白秋）
- 日本百景 平原の部入賞（昭和2年）
- 日本観光地百選 平原の部1位（昭和25年）
- 日本夜景遺産 自然夜景遺産認定（平成28年）  
富士三大夜景認定（令和元年）

# ◆位置及び主要アクセスルート

しずてつジャストライン (1時間間隔 日9本)  
新静岡→静岡駅→東静岡駅→日本平動物園→舞台芸術公園→遊木の森  
→日本平ホテル→日本平夢テラス→日本平ロープウェイ

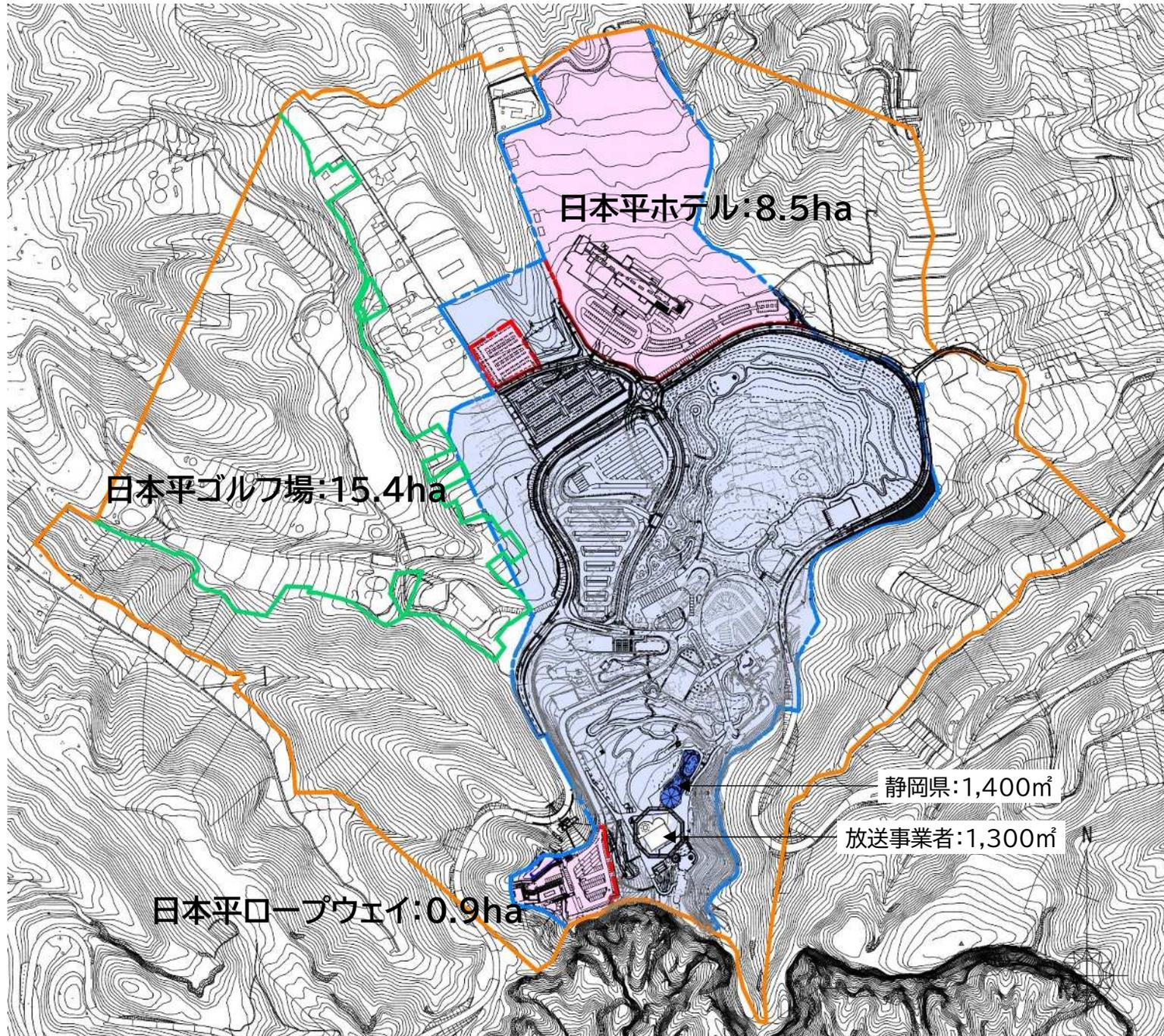


# ◆主な起点からの日本平公園への時間・距離



参考: NAVITIME

# ◆公園区域



- 都市計画区域: 88.5ha
- 事業区域(公共): 23.5ha
- 事業区域(民間): 9.4ha

静岡県: 1,400㎡

放送事業者: 1,300㎡

日本平ロープウェイ: 0.9ha

日本平ゴルフ場: 15.4ha

日本平ホテル: 8.5ha

# 目 次

I.第2回改定専門委員会等の主な指摘事項	7
II.アンケート結果のまとめ	8
III.基本計画の方向性の検討	9
1.計画方針の設定	
2.計画フレームの設定	
IV.導入機能・施設とイメージ案	14
V.空間の骨格構成	20
1.空間の骨格構成	
2.主要施設配置計画	
3.動線計画	
4.景観計画	
(参考-1)パークアクセスモビリティ	37
(参考-2)日本平公園周辺でのトピックス	39
◇日本平公園基本計画改定専門委員会の今後の予定	40

# I.第2回改定専門委員会等の主な指摘事項

## ①基本テーマについて

- ・「富士山プラス」は、日本平らしさを伝える上で過小のため再考。
- ・H19基本計画での「風景美術館」の経緯、根拠を再確認。
- ・神話を用いたテーマ・ストーリー化の導入。

## ②ターゲット層について

- ・観光利用だけでなく、市民利用を考慮。併せて域内調達率を高めること、リピーター層の獲得が重要。
- ・インバウンドの想定として外国人旅行客をターゲットに。

## ③景観・視点場について

- ・アプローチ景観や視点場等、過年度計画の大事な部分は、新たな機能・計画にも継承。
- ・「茶畑越しの富士山」の活用に向け、平原ゾーンへ誘導する施設やイベントを導入。
- ・山頂部の眺望を阻害する樹木の剪定・伐採を検討。

## ④活動メニューについて

- ・計画の実現性に向けた公園マネジメント(誰が実施)の視点が重要。
- ・市民参加を誘導するための市民への認知や広報が必要。

## ⑤空間の基本的な構成について

- ・対象とする風景や他施設との関連性等、より具体的な検証により、公園センターの位置や規模を設定。
- ・南北に長く高低差のある地形的特徴を活かしたデザインを検討。

## ⑥施設等について

- ・子育て世代の利用を想定した、ゆっくり遊べる公園。
- ・クルーズ船からの外国人利用者に向けた手もみ茶体験イベントの開催。
- ・ミストや屋内施設等、暑さ対策が必要。

## ⑦交通アクセス・園内移動について

- ・現状での交通分担率、路線バス利用者数を確認。(※資料一2)
- ・園内移動手段を確保すれば、駐車場が(施設から)離れていても良い。
- ・園内移動の動線にコンセプトを持たせる。

## 【公園部局以外が対象の指摘事項】

### ①(公共)交通について

- ・観光地を周遊する巡回バスや、主要駅からのシャトルバスの運行が必要  
→課題は共有しているが、実現に向けては他部局とも連携し、引き続き検討
- ・清水側からの路線バスの現状について  
→令和5年4月より、運転手不足により休止。現状、再開の見込みはない。(※交通政策課)

### ②自転車の活用について

- ・レンタサイクルの導入やサイクルレーンの設置  
→既に実施しているパルクール(交通政策課)や観光用レンタサイクル(静岡市観光自転車ネットワーク協議会)は街乗り用自転車であるため、山頂へのアクセス手段としては困難(※交通政策課)
- ・旧道の自転車専用道路化  
→域内の利用があり専用化は困難。また専用レーンの設置も幅員が狭いことなどから、現状では困難(※清水道路整備課)

### ③パークウェイについて

- ・夜間利用を見据えた道路照明の設置が必要  
→街灯設置の要望や予定は、現在のところない。但し、トンネル内については予算が確保できれば、設置の可能性あり(※駿河道路整備課、清水道路整備課)
- ・「風景美術館・日本平」にふさわしい(個性のある)パークウェイの整備が必要  
→道路管理者として実施できるのは、道路際の道路管理上、支障となる樹木の伐採のみ。但し観光PT等、市としての必要性の決定等あれば、実現の可能性はある(※駿河道路整備課、清水道路整備課)

### 【WEB利用者アンケート調査結果(概要)】

- ・『居住地』は、「市内」からの利用が6割強を占めている。「県外」では、愛知県、神奈川県、東京都等から来園している。
- ・『訪れる頻度』は、「年に1～2回程度」や「数年に1回程度」が多く比較的リピーターが多いことが分かる。
- ・『誰と一緒に訪れるか』は、「家族」が最も多く、次いで、かなり間隔をあけて、「友人・知人」や「ひとり」となっている。
- ・『交通手段』は、「自家用車」が7割強である。公共交通である「路線バス」と「タクシー」は、1割強で公共交通の利用が著しく低い。
- ・『利用目的』は、「風景鑑賞」、「各施設などの散策」、「写真撮影」が多い。なお、さらに時間帯が限られる「夜景観賞」は1割弱であった。
- ・『公園内で訪れた場所』は、「日本平夢テラス・展望回廊」が最も多い。
- ・『公園内での滞在時間』は、最も多い滞在時間は「1時間～2時間」が4割弱である。次いで、「30分～1時間」が3割強である。
- ・『公園と併せて立ち寄った施設や観光地』は、「久能山東照宮」が最も多くなっている。次いで多いのが「特になし」である。
- ・『公園で改善した方が良いと思う点』は、「子供が遊べる施設を充実する」、「雨天時にも映像などで景色を楽しむことができるようにする」等が多い。
- ・『山頂エリアまでの交通手段の要望』は、「主要駅からのシャトルバス」、「観光地を周遊する巡回バス」が多い。
- ・『山頂エリア内での移動手段の要望』は、「園内周遊電動カート」、「園内周遊バス」が多い。

# Ⅲ.基本計画改定の方向性の検討

## 1. 計画方針の設定

### 1) 改定に向けた視点

#### ① 潜在的資源を含む日本平公園の資源

- 日本平公園の地形的特徴による富士山を始めとする四周眺望
- 近隣に立地する全国レベルの観光資源（三保松原、清水港、久能山、登呂遺跡、駿府城公園等）
- 日本平ホテルや日本平ロープウェイ、日本平夢テラス等の静岡市を代表する観光施設の立地
- 有度山内に立地する日本平動物園や文化・芸術施設（静岡県立美術館、静岡県舞台芸術公園、ふじのくに地球環境史ミュージアム等）
- 草薙神話や久能山等の地域が有する古くから固有の歴史性、文化性
- 国指定名勝、自然公園、都市公園、風致地区等、様々な法規制による現状の自然風致の担保
- 静岡中心市街地や主な交通結節点から至近にある立地性

#### ② 将来計画を含む市場環境

- 公園利用者の8割以上が観光利用。一方、県内からの利用が35%で、その内の6割弱を市内利用者が占めている。
- インバウンド需要は韓国、台湾、アメリカ、中国の順で多く、全体の50%以上がアジア近隣諸国からの入込。今後の重点ターゲット市場（観光基本計画）に向けた国際ネットワークの活用やクルーズ船対応戦略等による、インバウンド需要への期待が高い。
- 清水港への大型クルーズ船はコロナ以降、徐々に回復傾向にあり、将来的な顧客層として期待できる。寄港地ツアーの訪問先では、三保、東照宮、日本平の順となっている。
- 日本平夢テラス、東照宮（日本平ロープウェイ）、日本平ホテルで、直近の年間来園者数は約100万人（令和6年3月2日交通量調査及び静岡市位置情報データ）。夢テラス等に匹敵する集客施設の導入や、イベント、夜間利用等の充実したソフトの展開等によっては来園者数の増大が期待される（過去の最大値：昭和52年／約280万人）。

#### ③ 国の重点施策等から見るキーワード（資料4参照）

- 持続可能な都市を支えるグリーンインフラとなる公園
- 心豊かな生活を支えるサードプレイスとなる公園
- 人と人とのリアルな交流、イノベーションを生み出す場となる公園
- 社会課題に向けた活動実践の場となる公園  
【都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言（令和4年度 国土交通省）】
- 持続可能な開発目標（SDGs）の実現、Well-being、ワンヘルス、こどもまんなか社会、DX等の実現
- ネイチャーポジティブ・カーボンニュートラル等への貢献  
【グリーンインフラ推進戦略2023 国土交通省】
- 自然資本の充実と環境価値を通じたウェルビーイングの充実  
【令和6年版 環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書 環境省】
- 観光産業の収益力・生産性の向上
- インバウンド誘客—消費額拡大・地方誘客促進
- 国内旅行の実施率向上、滞在長期化  
【令和6年版観光白書 観光庁】

# Ⅲ.基本計画改定の方向性の検討

## ④ 静岡市の上位関連計画（資料4参照）

### 【第4次 静岡市総合計画 2023～2030】

- ・「世界に輝く静岡」の実現
- ・持続可能な開発目標「SDGs」の推進
- ・人と自然が共に生き、将来にわたって豊かな営みを続けながら暮らすことができるまち
- ・歴史に育まれてきた多彩なしずおか文化に誇りと愛着を持つまち
- ・国内外の多くの人々を惹きつけ、多彩な交流を通じた賑わいが創出されるまち

### 【静岡市の都市ビジョンと財政状況 令和5年10月】

- ・誰もが心身ともに健康で人生を楽しみながら、自分らしく活躍し、暮らすことができるまちづくり
- ・「文化芸術」と「スポーツ」の力を生かして、市民の暮らしが豊かになるとともに、国内外の人々が活発に交流するまちづくり
- ・日本夜景遺産・日本平の夜景を活かした、民間と連携したイベントの開催等、観光客の市内滞在時間を延長、観光消費の拡大化
- ・国内外の人々が交流し賑わう「国際海洋文化都市」
- ・自然環境と森林を活かした賑わいが生まれ、持続的な経済活動が営まれるまちづくり

## 【静岡市観光基本計画 令和6年12月】

### ◆観光ブランド・イメージ：

「驚きと感動の国際都市」

### ◆ブランド戦略：

- ・「ガストロノミーツーリズム」「お茶ツーリズム」等の推進
- ・日本平や富士山等の風景の活用
- ・特色あるコンテンツで歴史文化を楽しむ機会と、魅力的な観光体験によるモデルコースの構築

### ◆ターゲット客層：

「高齢者層」・「ビジネス客層」・「ファミリー層」・「Z世代の女性層」

### ◆インバウンド戦略：

静岡市が誇る自然・食・歴史・文化などを体験・体感できる満足度の高い“感動体験”の提供

### ◆重点戦略：

- ① 美食
- ② 絶景（日本平周辺に点在する施設との面的連携、絶景をキラーコンテンツとする商品づくり）
- ③ 歴史（東海道や徳川氏ゆかりの地を活用）
- ④ ホビー

### ◆日本平・久能山・清水港・三保松原エリア：

- 名勝や文化的遺産、商業施設や港湾機能が集積し本市観光の顔となるエリア
- 取り組み方針：日本平を一体的に捉え活かす新たな取り組みとの連携、クルーズ客 への周遊促進、ナイトツーリズムの推進

# Ⅲ.基本計画改定の方向性の検討

## 2) 基本的な方向性

### ○基本構成

- ・風景に特化した高質の静的空間を形成。
- ・観光基本計画を踏まえた「体験コンテンツの充実」に向けた様々な動的アクティビティの導入。
- ・公園における自然環境の多様な機能を活かし、グリーンインフラとして、自然に接し、心身の安らぎや学び、遊び等の場として積極的に活用。

### ○サステナブル

- ・公園やグリーンインフラによって「自然資本」を回復させ、持続可能な社会を構築。
- ・エコツーリズム、サステナブルツーリズム等の観光需要の変化に対応する公園機能の向上。
- ・持続可能な公園経営を促進するため、公園利用における消費額の拡大、インバウンドの誘客促進等による運営管理を安定化。

### ○ウエルビーイング

- ・グリーンインフラ機能の向上や、心豊かな生活を支える居心地のよい交流・滞在空間の強化により、地域社会の魅力や幸福度の向上、観光・集客の競争力の強化に貢献。
- ・全てのこどもの健やかな成長、安全で安心して過ごすことのできる多様な体験活動や外遊びの機会の提供。

### ○公園利用の活性化

- ・一年を通じて市民のレクリエーションや市民交流の場として地域活性化の中核を担う公園づくり
- ・観光需要の拡大に向け、静岡市の特産である美食・絶景・歴史をテーマとしたアクティビティによる質の高い感動体験ができる公園づくり。
- ・公園区域を最大限に活用するため、パークアンドライド等の新たな交通システムの導入、将来的なクルマ社会に応じた駐車場規模の検証、三保松原等の周辺観光地からの回遊性を進展させる新たな交通手段等の導入。
- ・集客力を高めるために、カジュアル層からエグゼクティブ層までの幅広い利用ニーズに対応する高付加価値な宿泊施設や飲食施設、貴重な体験施設やプログラム等を提供。

## 3) 計画方針(案)

### ① 過年度計画の推移

#### 【平成18年度 日本平公園基本構想報告書】

##### ○基本テーマ 「風景美術館＝日本平」

日本平から遠望する風景は自然や人の営みが創出した芸術であり、日本平は 刻々変化する静岡の景観を所蔵する風景の美術館と捉えることができる。

##### ○日本平公園に展開する風景

- ・感動の風景—日本一の観富公園づくり
- ・集いの風景—景勝の地を礎とした観光・文化交流拠点の形成
- ・憩いの風景—幅広い市民利用に応える活動空間の創出
- ・癒しの風景—公園を彩る緑の保全と活用

#### 【平成19年度 日本平公園基本計画報告書】

##### ○基本テーマ 「風景美術館＝日本平」

悠久の時を経て変わらぬ風景と、1年24時間を通して様々な姿を見せてくれる富士山に代表される四周の風景が来園者に感動を与え、その先の富士の心象風景の世界に誘う「風景美術館＝日本平」を基本テーマとする。

##### ○風景美術館を構成する風景

- ・変わらぬ風景：「富士山」への展望、南アルプスの山並や三保半島から伊豆半島、駿河湾へ続く海、市街地等が織りなす「静岡」そのものの風景
- ・移ろう風景：季節による様々な風景を見せてくれる「富士山」、山容を明瞭に見せる朝の風景から駿河湾の日中の風景、夕照の光の風景
- ・心象の風景：雪舟や狩野探幽らが描き、徳富蘇峰らが評伝してきた独自の世界を表現した心象の風景に触れる機会を提供

##### ○風景計画の組み立て

- ・目標：「観富」の地としての風景の文化性の再評価と魅力の再生
- ・演出：物語の情景を飾る修景演出が導く富士の絵画的心象風景
- ・物語：自然の移ろいと観富の歴史文化が紡ぎ出す富士見の物語
- ・骨格：景観構造の骨格となる環境改善と、利用サービスの向上

# Ⅲ.基本計画改定の方向性の検討

## ② 基本計画改定に向けた基本テーマのブラッシュアップ

### 過年度の基本テーマ

日本平が有する優れた景観を中心に据え、様々な取り組みによって「風景を楽しむ公園」、「絵になる風景が広がる公園」を目指し、その文化財的価値を広く周知し、将来に継承していく。

### 公園を取り巻く社会情勢の変化と静岡市の取り組み

- ・ 持続可能な都市を支えるグリーンインフラの受け皿
- ・ ウェルビーイングを視点とした市民生活の質的向上
- ・ しずおかへの歴史や文化への誇りと愛着心の醸成への寄与
- ・ 国内外の活発な交流の場と機会の提供
- ・ インバウンドをはじめとした観光需要の掘り起こしで、地域経済活性化へ寄与
- ・ 民間資本や市民参加による公園整備及び運営管理への積極的誘致

### 基本テーマの改定

「風景」の文化財的価値に加えて、市民生活の質的向上と、日本平が有する観光的価値を視点とし、

富士山や駿河湾、伊豆半島、南アルプス等の遠景の視対象や、静岡、清水の中景の夜景といった変わらぬ風景に対し、公園整備による

○公園内のビューポイントや近景の構成要因の改善

○歴史文化の解説と演出

○様々なアクティビティの導入による非日常感の提供

を計画の骨子とし、日本を代表する絶景とともに、自然環境を最大限に活用した様々なアクティビティの導入や、歴史文化のストーリーを加えることで、季節や時間の移ろいとともに、園内各所で観光資源としての質の高い驚きと感動が体験できる魅力づけと、日本平公園のブランディングを強化する。

「風景美術館＝日本平」

～日本平の「驚きと感動」体験を支える日本一の展望公園を目指す～

## ③ 基本的な取り組み方針

### 取り組み方針①

目の前は日本一の眺望

絶景

○富士山を主景とした四周の風景と、園内の木々や草花が織りなす季節の移り変わりが、日本平の壮大な風景を創出し、いつ来ても感動の広がるビューポイントやシークエンスを設定

「季節が織りなす風景」

○1日の時間の中で山容を明瞭に見せる朝の風景、駿河湾から立ち上るもやで霞む日中の風景、日が沈む夕照、市街地の夜景、夜空の星の輝き等の光の風景を堪能する機能を点在させるとともに、「日本平夜市」やライトアップイベントによって夜間のアクティビティを提供

「光が醸し出す風景」

### 取り組み方針②

固有の歴史資源と遭遇

歴史

○ヤマトタケルノミコトの時代を経て、日本平は家康公の東照宮に続く、1,400年余りの悠久の歴史をもつ久能山において、古くから多くの人々の信仰を集めてきた、かけがえのない聖地としての文化的風景を形成

「歴史が紡ぐ風景」

### 取り組み方針③

賑わいと自然体験を提供

アクティビティ

○子どもたちの歓声、園内で催されるイベントや音楽の調べ、公園は人々が利用することで活気のある景観が生まれる。ウェルビーイングなライフスタイルに寄与する賑わいと交流の風景を創出

「人が奏でる風景」

# Ⅲ.基本計画改定の方角性の検討

## 2. 計画フレームの設定

### 1) 利用目標の設定

#### ① 主な利用層（ターゲット層）

##### ○観光客・インバウンド

- ・重点ターゲット：【地域】首都圏、中京圏／【客層】「高齢者層」「ビジネス客層」「ファミリー層」「Z世代の女性層」／【旅行類型】自由訪問型、MICE（※静岡県観光基本計画）
- ・大型クルーズ船の乗客、ゴールデンルートの立ち寄り
- ・市内滞在時間の延長（宿泊客の増加）、観光消費額の増加（※静岡県都市ビジョン）

##### ○県内日帰りレクリエーション

- ・移動時間1時間を目安とした対象地は、JR静岡駅及び清水駅を起点として東が富士、西が島田（概ね富士川以西、大井川以東）、東名高速富士ICから牧之原IC間が想定され、概ね県中部5市2町（静岡市、島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町、川根本町）が範囲となる。（静岡市を除く総人口数：約39万人）
- ・直近の静岡市を除く県内からの来園者数は、約15万人（※R5既往調査データより）

##### ○市民（※アンケート調査より）

- ・直近の年間来園者は約20%（20万人相当）（※R5既往調査データより）。静岡市の人口は、約67万人。
- ・「年に1～2回」が最も多く、「数年に1回」「2・3か月に1回」と続く。
- ・来訪形態では、「家族」が7割を占め、「友人・知人」「ひとり」と続く。
- ・利用行動では、「散策」「風景観賞」が最も多く、「写真撮影」「ドライブ」「食事」と続く。
- ・滞在時間では「1～2時間」が4割、「30分～1時間」が3割である。

#### ② 入込者数

静岡県が策定する社会資本総合整備計画（令和2～令和6）の令和6年度末の計画目標値は、220万人。

一方で、静岡県観光政策の方針では、滞在時間の延伸と消費額の上乗せを計画指標としていることから、我が国における少子化・人口減少の動向と併せ、直近（令和5年度）の年間来園者数の約100万人（令和6年3月2日交通量調査及び静岡県位置情報データ）をベースに、民間施設を含む現在の供用開始範囲、約55%を勘案して、本計画での来園者目標を200万人/年とする。

#### ③ 駐車場規模（資料5参照）

- ・現状での駐車場の利用状況は、日本平ホテル駐車場を除く約770台に対して、回転率6回程度（滞在時間：1.5時間）の場合で年3日（GW）、回転率4回程度（滞在時間：2時間）で年21日程度の超過が想定される。
- ・現状の年間来園者100万人に対して、目標値の200万人とした場合、現状と同様の利用とした場合には、約2倍の駐車場規模が必要になるが、本計画では利用の集中を極力避け、平準化を図るものとしており、将来的な交通システムの導入や、土地の有効利用の観点からも、駐車場規模は抑えた計画とする（土地利用上の推定値：約900台）。

## IV.導入機能・施設とイメージ案

# IV.導入機能・施設とイメージ案

## 1.導入機能・施設の想定とイメージ

### 1)基本的な考え方

- ・市民利用ニーズや観光需要に柔軟に対応する機能向上を図りつつ、基本テーマ（日本平の「驚きと感動」体験を支える日本一の展望公園）の実現に向けて、その取り組みとしての「絶景」「歴史」「アクティビティ」の視点から、導入施設を想定
- ・一年を通じて市民に親しまれる公園としていくための、市民の非日常体験の場の形成と空間演出
- ・持続可能な公園運営に向け、利用者の滞在時間の延伸により費用対効果の改善を図るとともに、施設建設や運営管理への民間活力を誘導する環境を整備
- ・富士山が見えない来園時にも、その機会を十分に楽しめる施設やアクティビティを提供
- ・景観に代表される日本平の長所を活かしつつ、新たな観光トレンドに柔軟に対応した様々な体験・活動メニューの提供
- ・今後の増加が期待されるインバウンド需要への積極的な対応
- ・経済的・効率的駐車場計画に向けた、利用の平準化に資する施設構成の検討
- ・近年の温暖化に対する酷暑対策等、特に夏季の利用者の快適性に配慮

### 2)導入機能・施設のイメージ

#### ① 絶景

- ・日本一の展望公園、壮大な海と空と富士山を始めとする四周眺望機能の強調 → 霊峰テラス(公園センター)・展望テラス
- ・日本夜景遺産や日本平の夜景を活かしたビュースポットの設置と夜間利用の拡大 → 霊峰テラス・展望テラス・芝生広場
- ・6月から9月の、特に富士山が見えづらい時期の利用に対応したサービス機能の導入 → 霊峰テラス(映像)・フラワーガーデン
- ・広い敷地を活かした大規模花壇や茶畑等の修景機能の向上 → フラワーガーデン・体験茶畑

公園利用の活性化の起爆剤となる快適な絶景ビューポイントの設置



雨天時等の利用対応として富士山を始めとする四周眺望を映像体験



静岡県富士山世界遺産センター 映像シアター

時間とともに様々な表情を見せる駿河湾のビューポイントの設置



絶景を楽しむビューポイントは、お洒落で居心地の良い空間づくり



夢エラスからの眺望

夜景を楽しむビューポイントの設置、民間と連携したイベントの開催



開放的な空間を活用した大規模なフラワーガーデンの形成



# IV.導入機能・施設とイメージ案

## ② 歴史

- 草薙神話や久能山等の古くからの歴史や徳川氏ゆかりの地である地域性を踏まえ、固有の歴史・文化資源の保全と活用を図るための環境づくり
- 日本武尊(やまとたけるのみこと)をモチーフにしたキャラクターイメージを幼児の遊び場やフォレストアドベンチャー等に展開  
→ 幼児の遊び場・フォレストアドベンチャー
- 本公園の歴史性を演出する野草(ススキ等)や、季節イベントに呼応した花木(ユメマチザクラ、タキザクラ、カワズザクラ、ウメ等)の配植 → フラワーガーデン・芝生広場・サクラテラス+タキザクラの庭・和風庭園(梅園)

日本平公園に設置された草薙剣をもつ日本武尊の立像



草薙神社は日本武尊を御祭神とし、火難伝説に関連する神社となる



県のマスコットキャラをモチーフにした幼児用の遊具(埼玉県の場合)



久能山東照宮は、当時最高の建築技術・芸術が結集された権現造式



晩秋の枯野を見立てたグラスランドスケープによる「草薙の伝説の景」



江戸時代に名工を集めたことに端を発し、今日のプラモデル産業につながる奉納プラモデルの展示



# IV.導入機能・施設とイメージ案

## ③ アクティビティ

- 多様なアクティビティが提供できる魅力ある市民交流・観光交流の拠点づくり
- 食の地産地消による極上の美食の供給、地域の風土や文化を体感するガストロノミーツーリズムの推進
  - レストラン・カフェ・甘味処・物販
- 公園を形成する自然や景観、花修景等による四季折々の素晴らしい眺望を満喫でき、ゆっくりとした時間を過ごせる憩いの空間づくり → 芝生広場・フラワーガーデン
- 自然環境の多様な機能を活かし、自然とのふれあい機能や遊び機能の導入 → ファミリーパーク（幼児の遊び場・デイキャンプ）
- 富士山の眺望とバーベキューを楽しむ、開放的なテラス機能の導入 → バーベキューテラス
- 居心地のよい空間が生み出す心豊かなライフスタイルを形成する交流・滞在機能の導入 → グランピング
- 自然のロケーション地で、活動的な遊びやダイナミックな自然体験ができる空間づくり → フォレストアドベンチャー・ジップライン
- お茶のまち静岡、本場のお茶や人との交流を楽しむ体験型の活動の場の提供 → 体験茶畑
- 公園の中心部には、利用者の集合離散や地元のイベント開催、キッチンカーの配車等の様々に活用される広場を確保
  - センター広場（集散、イベント、キッチンカー等）
- 敷地の広さと地形を活かした、複数の会場で催される野外音楽フェスティバル → 芝生広場・センター広場
- 市内観光交流施設の拠点機能の確保（市内観光施設との連携）
  - 霊峰テラス（観光案内）
- 近年飛躍的に増加しているクルーズ客への受入態勢の強化と周遊促進 → 霊峰テラス（観光案内、展示、飲食）・体験茶畑
- ストレスなく、スムーズに来園できるアクセス機能の検討（公共交通サービスの充実）

- 安全で快適な園内移動手段の確保（自動電動カートなどの交通システムの導入）

# IV.導入機能・施設とイメージ案

美食テラスは、地産地消の旬の味覚を味わう極上のサービスを提供



鮮魚のアクアパッツァ

空中を滑走するジップライン



英国エデンプロジェクト

和風レストランでは、静岡茶の煎茶点前を体験



静岡市を代表するコンテンツ（プラモデル）のサイン等への活用



静岡駅のプラモニュメント

自然の中で安全・安心な遊びを引き出す幼児遊び場



芝生広場と展望テラスは、空と海と富士山による大パノラマを堪能



静岡の特産物である貴重な茶摘み体験の場の提供



近年、増加傾向のクルーズ客への多言語対応などの対応



巨大アスレチック立体迷路



ファミリー利用が見込まれるバーベキューテラス



毎月第4土曜日に園内の駐車場等で開催されている「日本平夜市」



公園内を電動カートが運行【乗客1人につき往復100円（寄附金）】



フォレストアドベンチャー（夜間）



兵庫県立淡路島公園ニッケンフォレストアドベンチャー

近年、利用ニーズが高まっている自然体験型のグランピング



愛鷹広域公園(INN THE PARK 沼津)

老若男女のファンでにぎわうサマロックフェスティバル



ナッシュビル CMA FEST(アメリカ合衆国)

スムーズに来園できるアクセス機能の強化



# IV.導入機能・施設とイメージ案

## 3)導入機能・施設の概要

施設名	構成施設	主な利用層	有料・無料	民活事業
芝生広場		市民・観光客(県内外)・インバウンド		
フラワーガーデン		市民・観光客(県内外)・インバウンド	有料	○
サクラテラス・タキザクラの庭		市民・観光客(県内外)・インバウンド		
和風庭園(梅園)		市民・観光客(県内外)・インバウンド	有料	○
体験茶畑		観光客(県内外)・インバウンド	有料	○
霊峰テラス(公園センター)	レストラン・カフェ	市民・観光客(県内外)・インバウンド		○
	ギフトショップ			○
	映像展示		有料	○
	観光案内			
	ゲストルーム		有料	○
	公園管理			
展望テラス		市民・観光客(県内外)・インバウンド		
ファミリーパーク	幼児の遊び場	市民		
	デイキャンプ			
バーベキューテラス		市民・観光客(県内外)	有料	○
センター広場		市民・観光客(県内外)・インバウンド		
グランピング		市民・観光客(県内外)	有料	○
フォレストアドベンチャー		市民・観光客(県内外)	有料	○
ジップライン		市民・観光客(県内外)	有料	○

## V.空間の骨格構成

# V.空間の骨格構成

## 1.空間の骨格構成

### 1)空間利用のコンセプト

#### 【日本平の歴史的位置づけ】

- 古来、日本平は久能山と一体のものとして位置付けられており、7世紀頃、秦氏の久能忠仁が開山、一寺を建て補陀落山久能寺と称したことを初とする。
- 平安時代、多くの僧坊が建てられ、鎌倉時代中期の類焼まで、屈指の寺院であった。この時代、久能寺の参詣道は、日本平を通っていたとされている。
- その後、武田氏の築城、東照宮の造営と続き、日本平から久能山への連絡が途絶えることになる。

#### 【日本平の地形的特徴】

- 日本平公園は、有度山山頂部に形成する日本平面と呼ばれる台地面を主な範囲とし、南端の吟望台（GH300.0）を頂点として北及び北東方向に緩やかに下る、最大で標高差53m、平均斜度4°の斜面地で構成されている。
- 夢テラスに至る斜路の終点から山頂部までの区域（比高差2m、斜度1度）、同斜路起点から県営駐車場北端（比高差11m、斜度4°）の区域、ここから大芝生広場北東端（比高差26m、斜度5°）の区域、山頂部から南西方向に約15m下がった日本平ロープウェイの区域に区分できる。

図. 現況地形図



①



②



③

急斜面：比高差4.0~15.0m



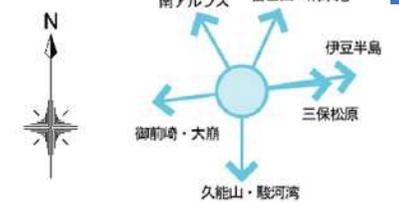
④



⑤



⑥



# V.空間の骨格構成

## 【日本平の景観的特徴】

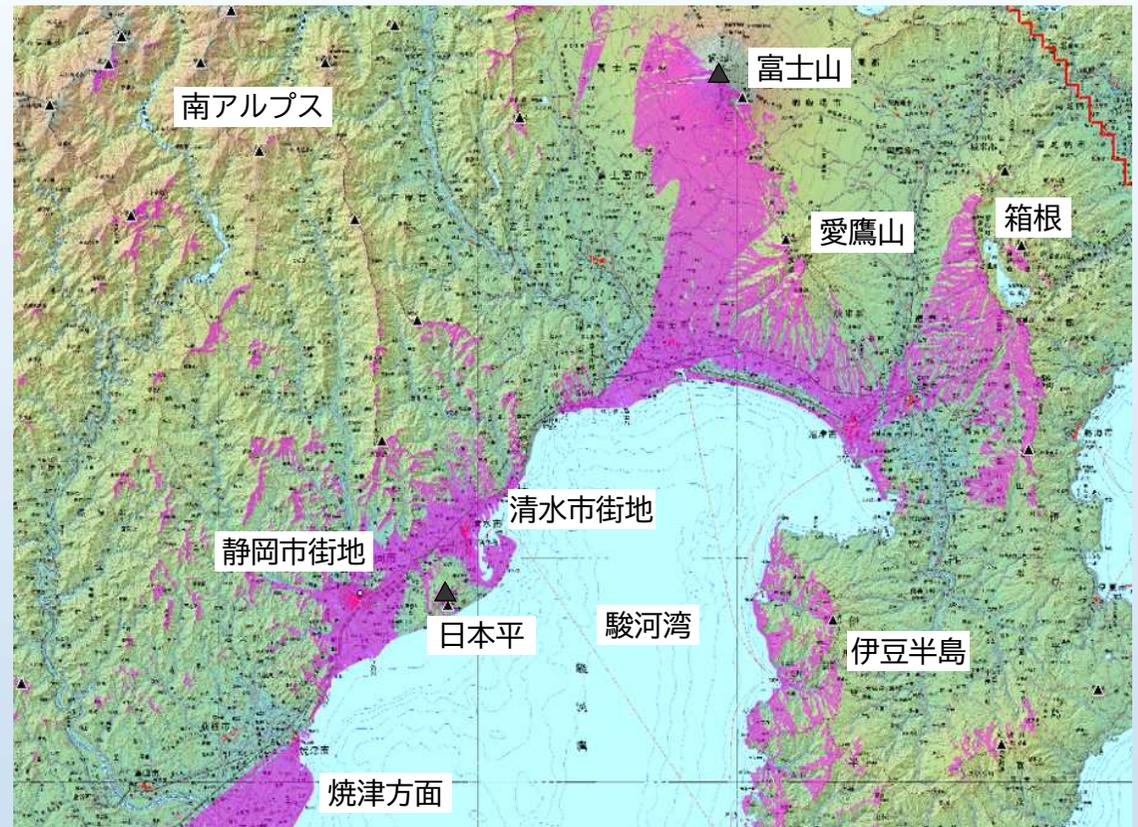
### ① 眺望景観

- 富士山までの直線距離は約49km、仰角(見上げ角度)4度で、一般的山岳展望の理想的仰角(6度前後)より小さいものの、その不足を補うのが俯角(見下げ角度)範囲にある清水港一帯の俯景観で、目線より下の景観領域が確保されることにより、上下の視野の広がりが見られ、安定した景観を形成。
- 富士の裾野を隠すように張り出す幾重の低山稜が景観に奥行きを与える役割を果たすなど、近景、中景、遠景の組み合わせの秀逸さが絵画的風景を創出。
- 夜景や日の出の美しさも特筆すべき景観要素。
- 富士山が見える日数は年間約120日で、12、1月は20日前後富士山が望めるが、6月はほとんど見る事ができないなど、天候に左右されやすい傾向。
- 富士山方向以外では、東は伊豆半島、西は焼津・御前崎方面、南は駿河湾、北は南アルプス南部まで見渡せる。一方で、突出した高所がないため同一地点からの四周眺望はできない。展望回廊(日本平夢テラス)がこれを補完。



日本平の代表的風景

図. 日本平山頂からの可視範囲



景観図



①大芝生広場園路からのパノラマ景



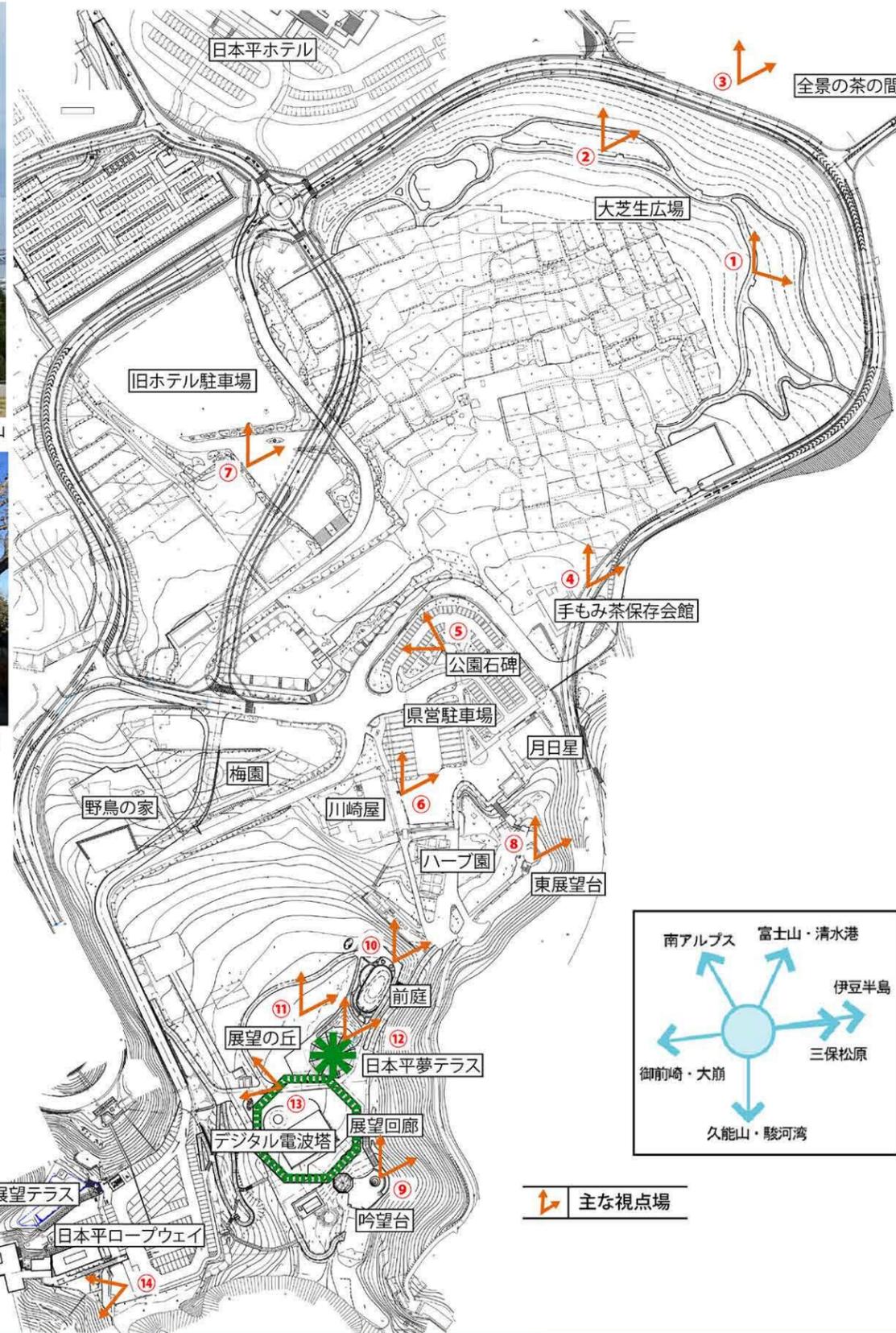
③全景の茶の間から富士山



日の出と富士山



②大芝生広場園路から富士山



➡ 主な視点場



夢テラスと富士山の夜景



夜の賑わい(日本平夜市)



④手もみ茶保存会館から富士山



⑤県駐車場から南アルプス(最奥)



⑩前庭前面からの富士山



⑪展望の丘から富士山



⑥川崎屋前駐車場から富士山



⑦駐車場・ヤマトタケル像と富士山



⑫夢テラスからの富士山パノラマ景



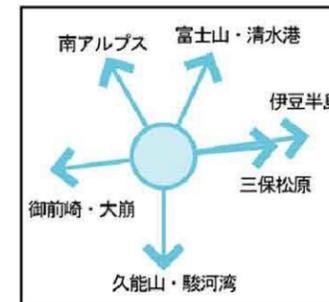
⑧東展望台(2階)から富士山



⑨吟望台から富士山(手前カワズザクラ)



⑬展望回廊から駿河湾・静岡市街



富士山と夜景(清水市街)



⑭山頂エリアからの久能山・駿河湾

# V.空間の骨格構成

## ② 内部景観

- 本公園内の景観は、計画的な土地利用の誘導や施設整備が行なわれていないため、総じて雑多で魅力に欠けるものとなっている。
- 繁茂した樹林や構造物が視点場からの眺望を阻害しており、風景を魅力ある観光コンテンツにブラッシュアップさせるためには、視点場からの近景や視点場環境の改善が求められる。
- 園内の農地（茶畑等）は郷土景観を表す上で重要な役割を担っているが、手もみ茶保存会館以外の茶畑の多くが失われ、かつ、農業従事者の高齢化や担い手不足等により、その他の農地も営農放棄地の状態で、一部農地跡は、竹林に代わっている。
- 樹林地も本公園の緑の骨格を形成する役割を果たしている一方で、十分な管理が行われていないことから、一部で竹や高径ササが混入し、これらの群落地に遷移している箇所も相当箇所、見受けられる。



県駐車場からの景観阻害例  
(駐車場、建物、樹林)



山頂北西斜面のササやぶ



旧ホテル駐車場わき農地のタケ侵入

# V.空間の骨格構成

この地形的、景観的特徴を踏まえ、計画地が本来有していたポテンシャル（開放的台地形）を再生し、併せて久能寺の参詣道であった歴史性をモチーフとして空間にストーリー性を持たせ、各々の特徴に合わせて施設を配置する。

## ①前庭 ～富士に広がる展望～

富士山方向に大きく開けた緩傾斜の地形を生かした開放的な芝生地や花修景地として活用。

## ②中庭 ～広場に集う、まちの賑わい～

寺社の門前町を見立てとした来園者の集散の場、祭り・イベント空間や、茶屋などの飲食・物販施設を配置し、まちのにぎわいを創出。

## ③奥庭 ～歴史が伝える四周の眺望～

久能寺（現在は東照宮）への現代の参詣道であるロープウェイと、東照宮にあった五重塔をデザインモチーフとしたデジタル電波塔や、夢殿にも擬することのできる夢テラス、展望回廊をシンボルとした静謐の園地として活用。



# V.空間の骨格構成

## 2)空間の骨格構成の基本的考え方

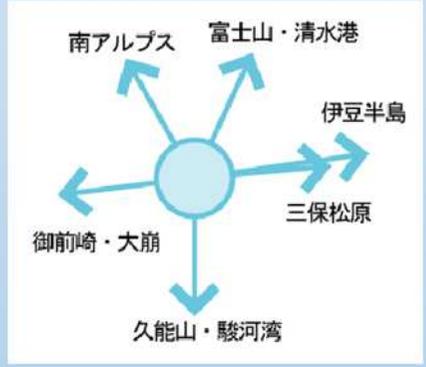


駐車場は、山頂部からの景観に配慮してアプローチ道路西側の北端に配置。立体構造とし、施設規模を抑制

ラウンドアバウト交差点からのアプローチ道路を、できるだけ西に寄せて配置

かつての日本平上位面の地形の再生を目標として、極力、富士山方向に連続する緑地を形成

- 山頂部から遠隔地になる駐車場からの来園者のエントランス施設として霊峰テラス(公園センター)を前庭(平原ゾーン)と中庭(センターゾーン)の中間に配置
- 利用の平準化を図るため、山頂部における夢テラスの対となる拠点施設として位置づけ、公園北側への来園者の移動を誘導



# V.空間の骨格構成

## 2.導入施設のイメージと配置計画

### 1) 前庭(平原ゾーン)

#### ① 大芝生広場

エリア最下部(北東端)の整備済み芝生広場の延長。富士山を主景に三保半島や清水市街地、清水港、伊豆半島が遠望できる開放的な園地。本公園の枢要なビューポイントとして位置づけ。

#### ② フラワーガーデン

大芝生広場から連続する上側(南西側)の緩傾斜地を園路で囲み、広大な敷地を活かした宿根草やグラス類を主体とするナチュラルガーデンや、野草が混在するくさっぱら、ツツジやサクラなどの花木等から成る草花の庭園。富士山の前景としてばかりでなく、富士山が見えない時でも楽しめる散策園地として整備。

一部にバーベキューコーナーを設けるなど、レクリエーションメニューに幅を持たせる。高い維持管理レベルを保つため、季節別園地有料・閉鎖管理を想定。

#### ③ ファミリーパーク

大芝生広場の北西端の一隅を位置とした、主に子ども連れでの市民利用に対応したレクリエーション施設。デイキャンプサイトや、日陰施設を併設した幼児遊具コーナー等で構成。

#### ④ 体験茶畑

現在の手もみ茶保存会館のリニューアル。現況の茶畑を極力、残す配置・形態とする。但し、現在の会館建物の老朽化と眺望の阻害要因となっているため、移設の上で改築。

#### ⑤ こもれびの遊歩道

アプローチ道路沿いのバリアフリー対応歩行者園路。富士山の眺望を阻害しない敷地に当たるため、雑木や花木等の疎林地を形成し、アプローチ道路からの公園エントランスとしての修景地として活用。

### 2) 中庭(センターゾーン)

#### ① 霊峰テラス(旧公園センター)

本公園の複合サービス機能を担うセンター建築施設。富士山が見えない時も利用できる映像展示(たとえば日本平の歴史や静岡市の風景地の紹介等(絶景映像テラス))や公園のビジターセンター機能、

飲食・物販、賓客を接遇するゲストルーム、公園管理事務所等の利用を想定。富士山方向に開かれた大窓や外部広場と連続した屋上部を利用した展望テラスを配置。

エントランス広場をはさんだ駐車場からの直近のアプローチ道路沿いに配置し、アプローチ道路とセンタープラザの比高差を解消する多層構造とすることにより、建物内のエレベーターやエスカレーターによりバリアフリー経路を確保。

#### ② センター広場

霊峰テラス屋上の展望テラスにつながる中央広場。日本平夜市や梅まつりなどの様々なイベントや野外コンサート等の受け皿となる芝生広場(中央芝生広場)と、キッチンカーなどが置ける舗装広場(センタープラザ)から構成。

#### ③ 交通ターミナル

センター広場に隣接した位置に、バス駐車場や身障者対応駐車場、路線バス停留所、タクシー乗り場、自動二輪駐車場、駐輪場等の交通施設を集約して配置。併せて園内カート乗り場を併設。

#### ④ フォレストアドベンチャー

駐車場の立体化により残った駐車場南側の敷地に配置。樹林を活かしたツリーハウスや吊り橋、立体迷路、ネット遊具などを配置し、主に若年層の市民をターゲットとした有料施設として整備。

#### ⑤ ジップライン

現在の東展望台(1階)と大芝生広場をつなぐ約250mの遊具施設。東展望台への誘客のための施設として位置づけ。

#### ⑥ サクラテラス・タキザクラの庭

現在のハーブガーデン及び舗装広場を改修。バリアフリー園路が縦断する芝生の疎林地園地。植栽種はサクラを主体とし、その一部(現在の位置で継続)のタキザクラは、その由来や周囲の修景によって富士山のビューポイントに位置付け。また、域内調達率を視点として、門前の茶屋町をモチーフとしたレンタル店舗(現在のガーデンマルシェ)を園路沿いに複数棟、配置。



ガーデンマルシェ

# V.空間の骨格構成

## ⑦ 梅園

既設の梅園の拡張リニューアル。一部に野点のための園地を配置。

## ⑧ 和風庭園+茶屋

現在の「野鳥の家」の活用。「離れ」的静謐空間の特徴を活かし、梅園と景観的に連続する梅の和風庭園として活用。現在の建物は構造調査の上、リフォームして甘味処や和風レストラン等として活用。

## 3)奥庭(観富の丘ゾーン)

### ① グランピング

宿坊をモチーフとしたアウトドアをリゾート感覚で快適に楽しむキャンプスタイルの宿泊施設。夢テラス及び展望の丘北側の斜面地を利用。景観に配慮し、棟間をゆったり確保した配置のテント形式(概ね1区画100㎡、8から10区画を想定)を基本とし、園地部も疎林や林床の花低木等によって宿泊地環境を整備。民間事業者の参画誘導施設として位置づけ。

## 4)駐車場

### ① 交通ターミナル

現在の旧日本平ホテル駐車場の位置に立体構造(2層)の駐車場を配置。敷地規模から概ね470台を想定。併せてバス待機場(臨時駐車場併用)、園内バス停留所(将来的にはエアモビリティの離発着場として併用)を併設。

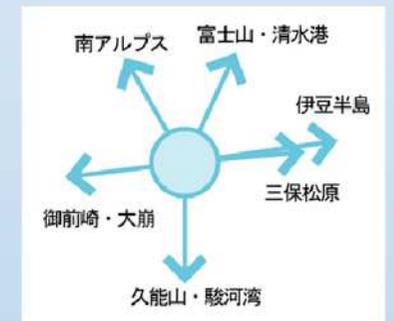
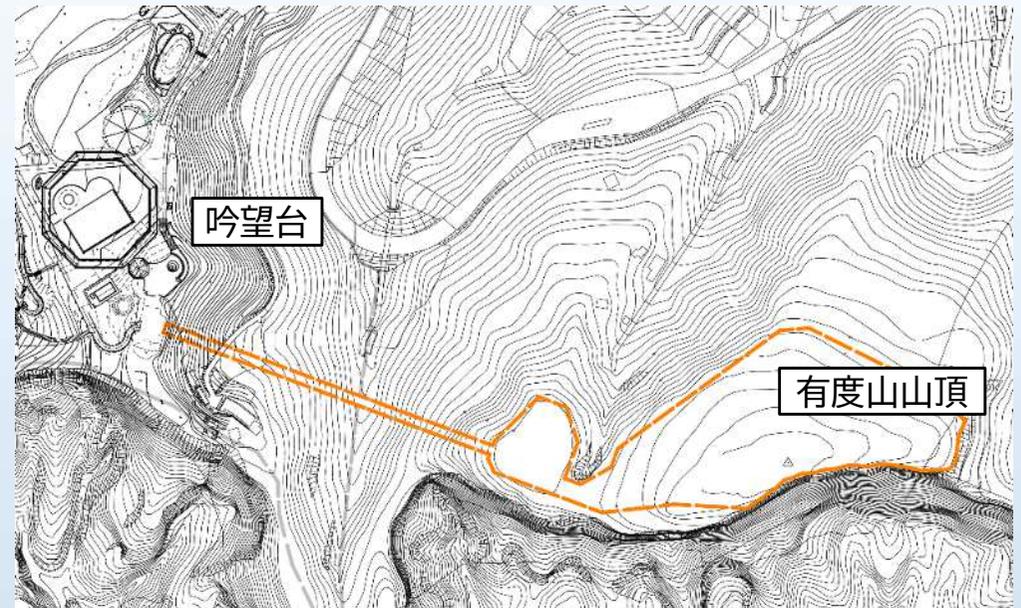
## 5)その他

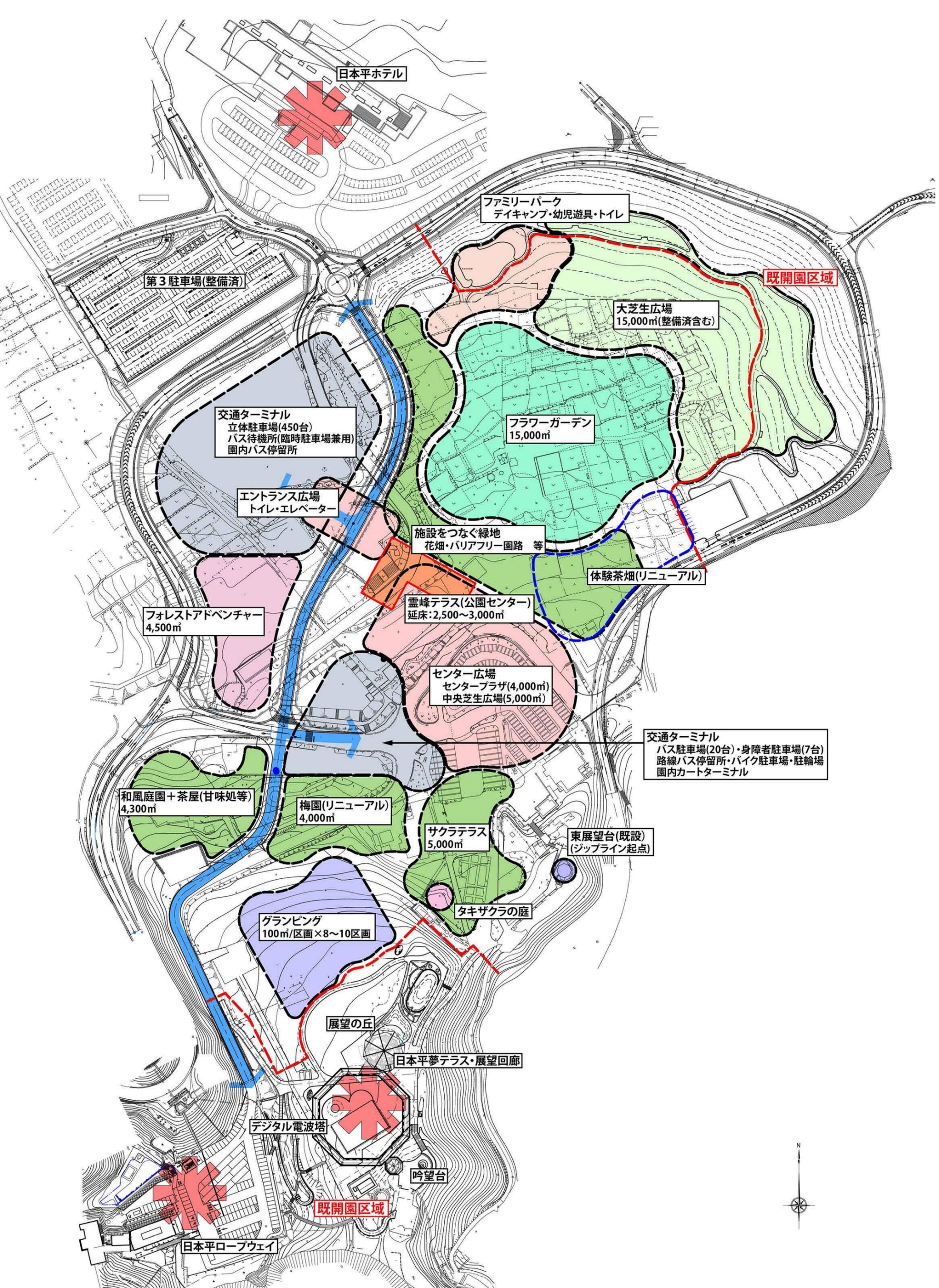
### ① 茶畑(全景の茶の間)

大芝生広場からアクセス道路をはさんで北東側に位置する茶畑(民間)は、富士見景観のビューポイントでもあることから、現在の位置、範囲で存続。現在の営農者が高齢のため廃業を希望しており、公園化に際しての維持管理手法が課題。

### ② 有度山山頂

現在は、都市計画区域外にある有度山の山頂部。展望史跡(超然台)のひとつであり、四周眺望のビューポイントであることから、吟望台からの吊り橋により動線を確認した上で、新たな展望施設に追加。





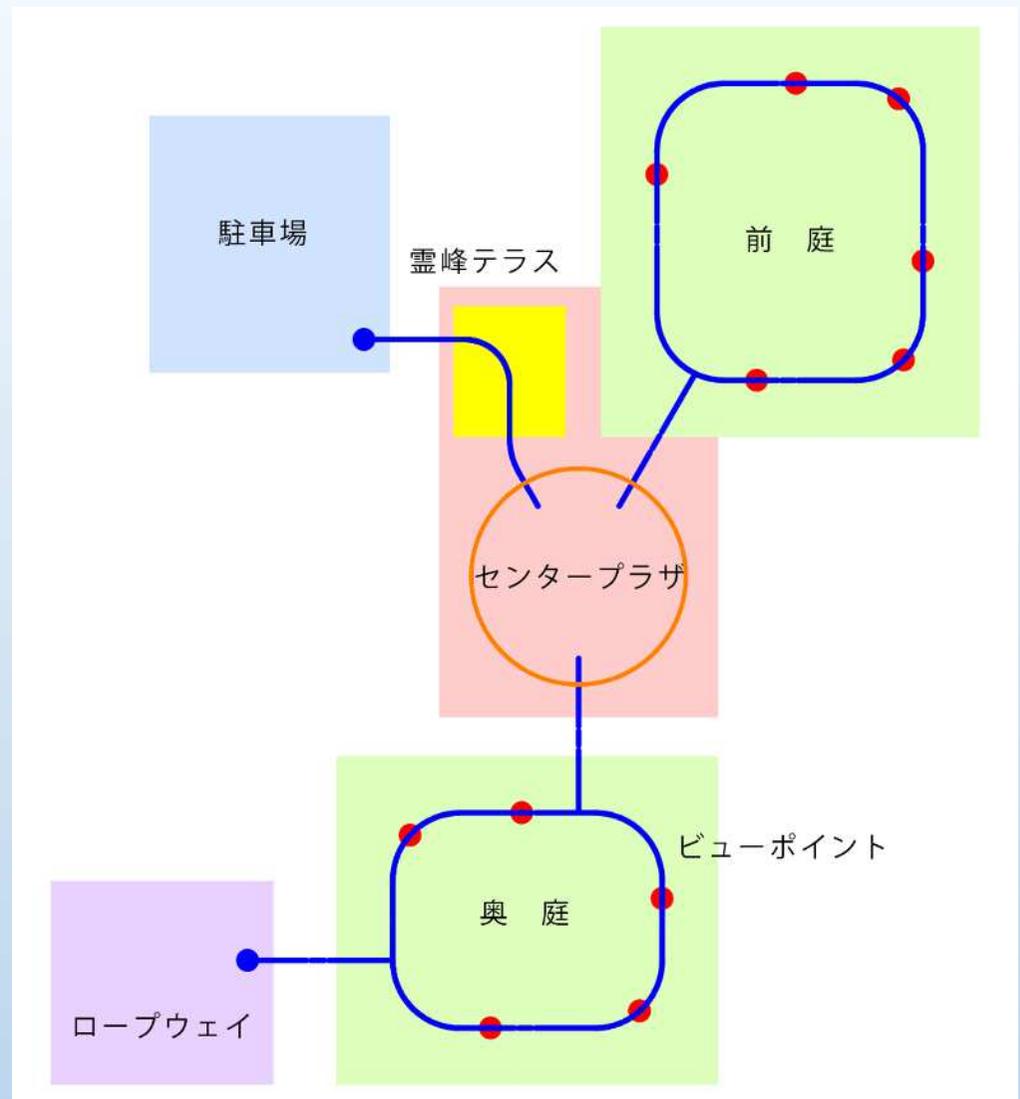
# V.空間の骨格構成

## 3.動線計画

### 1)動線計画の基本的考え方

#### ① 園内歩行

- 公園へのアクセスは、自動車利用者は、駐車場から霊峰テラス（公園センター）館内のエレベーター、エスカレーターを経てセンタープラザを経由し、前庭、奥庭の回遊園路に接続。
- バス並びに路線バス、タクシー利用者は、中庭（センターゾーン）内の交通ターミナルを起点として前庭、奥庭の回遊園路に接続。
- 前庭、奥庭の回遊園路や中庭内の園路は、各エリアの施設をつなぐとともに、適宜、景観のビューポイントを配置し、これらをつなぐ「絶景ウォーク」のコースとしてアクティブコンテンツに位置付け。
- 歩行動線はできる限りバリアフリー対応（縦断勾配5%以内）とし、高低差を利用した沿道修景によって、「歩く」ことがレクリエーションになるよう配慮。



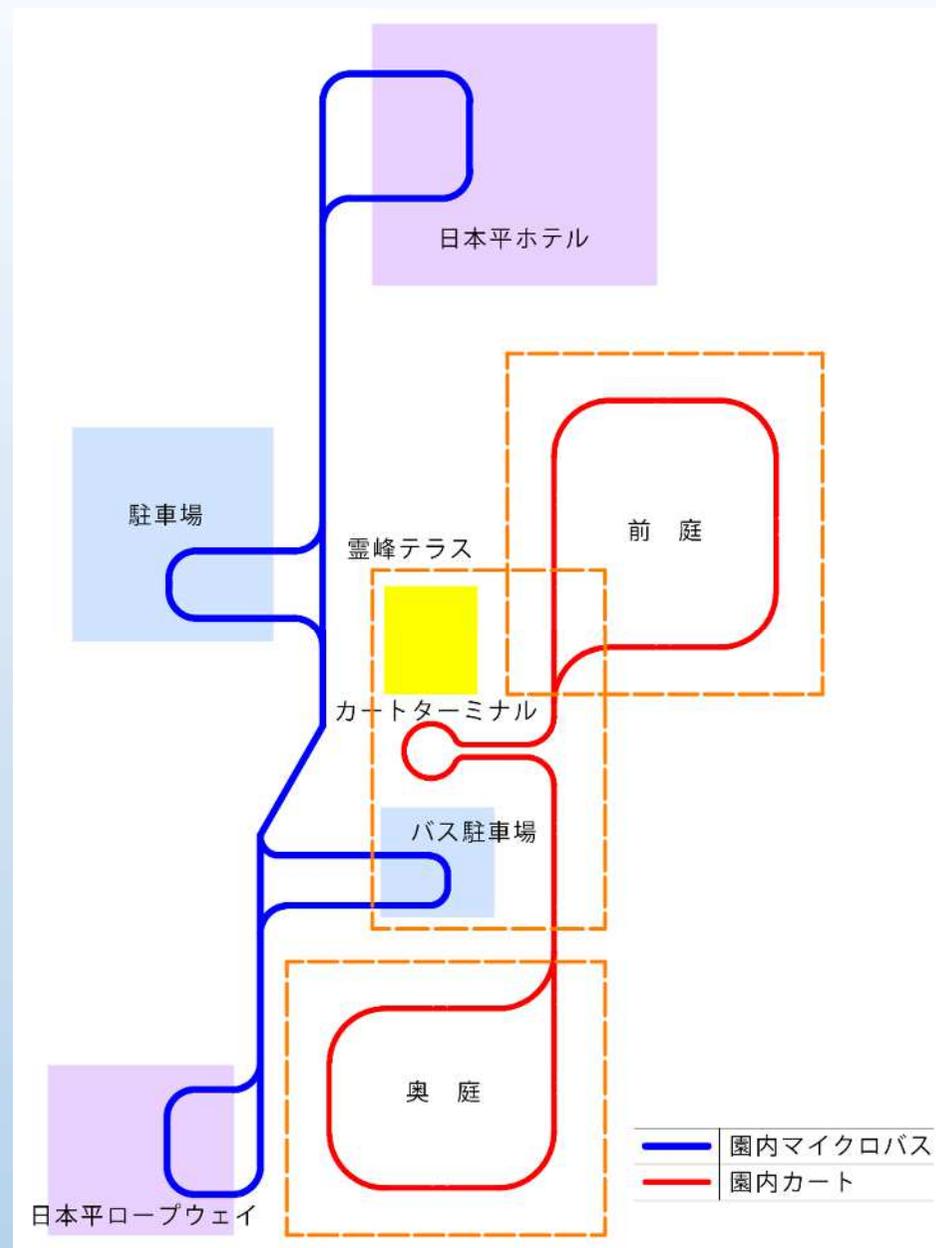
## ② 園内移動

### 【各施設間移動】

- 計画地（事業区域）は、山頂の吟望台から北端の大芝生広場まで直線で600m、53mの高低差があり、園内全域を移動するためには相応の体力を要することになる。
- 特に高齢者や、滞在時間に制約のある来園者等に対しては、バリアフリーの観点からも歩行を補助する移動サービスへの期待が想定される。
- 現在、夢テラス周辺で乗合型の電動カートが運用されており、園路内における少人数の乗合型の運用を考慮し、霊峰テラスに近接するセンター広場内に各所移動の起点（ターミナル）を設け、各エリアを周回する電動カート等の導入を検討する。
- 電動カートについては、将来的には、自動運転を考慮する。

### 【日本平ホテルと日本平ロープウェイ間の移動】

- 要望の高かった日本平ホテルと日本平ロープウェイ駅を連絡する移動については、駐車場と駅間との移動距離の課題と併せ、団体利用等のまとまった人数の移動を考慮し、マイクロバス等の導入を検討する。



## 4.景観計画

### 1)基本方針(※平成19年度基本計画再掲)

#### ① 面的に連続する緑地景観の創出

吟望台から日本平ホテル芝生庭園までが「みどり」で連続する広がり感の創出。

#### ② 富士山方向の眺望を基軸とする景観形成

富士山方向を意識させる視点場や施設の配置、観富にまつわる歴史性を予感させる環境形成等によって観富の地を再生。

#### ③ 地形特性に応じた主な視点場からの風景の演出

地形的特徴を活かし、遠望景の前景となる俯瞰側の景観を意識した修景演出を図ると同時に、下方からの仰瞰景に配慮。

#### ④ 施設(特に大型構造物や面的施設)整備における景観的配慮

駐車場や建築物等の人工構造物について、主要な視点場からの可視範囲の修景的措置による緑地としての景観的な一体性を確保。

#### ⑤ 1年24時間を通じて楽しむことのできる風景づくり

園内修景による風景の演出や、季節や時間(日の出、日の入り、夜景等)等、1年を通じて、かつ24時間を通じて楽しむことのできる変化に富んだ風景を提供。

#### ⑥ 回遊を誘導するための視点場の意味づけや環境演出

視点場や視界に入る景色に変化を持たせ、各々の風景に物語性を加えることで視点場への移動を誘導

# V.空間の骨格構成

## 2)骨格となる景観構造

### ① 富士見の眺望や四周眺望景観のストーリー性を演出する景観軸の設定

日本平を視点場とした絵画や風景写真を見立てとした新たな視点場の設定にあたり、各々にストーリー性を持たせるため、いくつかの景観軸を設定する。

#### ●富士見の景観軸

地形の傾斜方向の北東軸(北より+30°)を本公園の主景観軸とし、主に富士山を眺望できる秋～初夏を景観の対象として、例えば「富士見の視点場＝富士見八景」を設けることにより、日本平公園の特徴ある魅力づくりを目指す。

#### ●黎明の景観軸

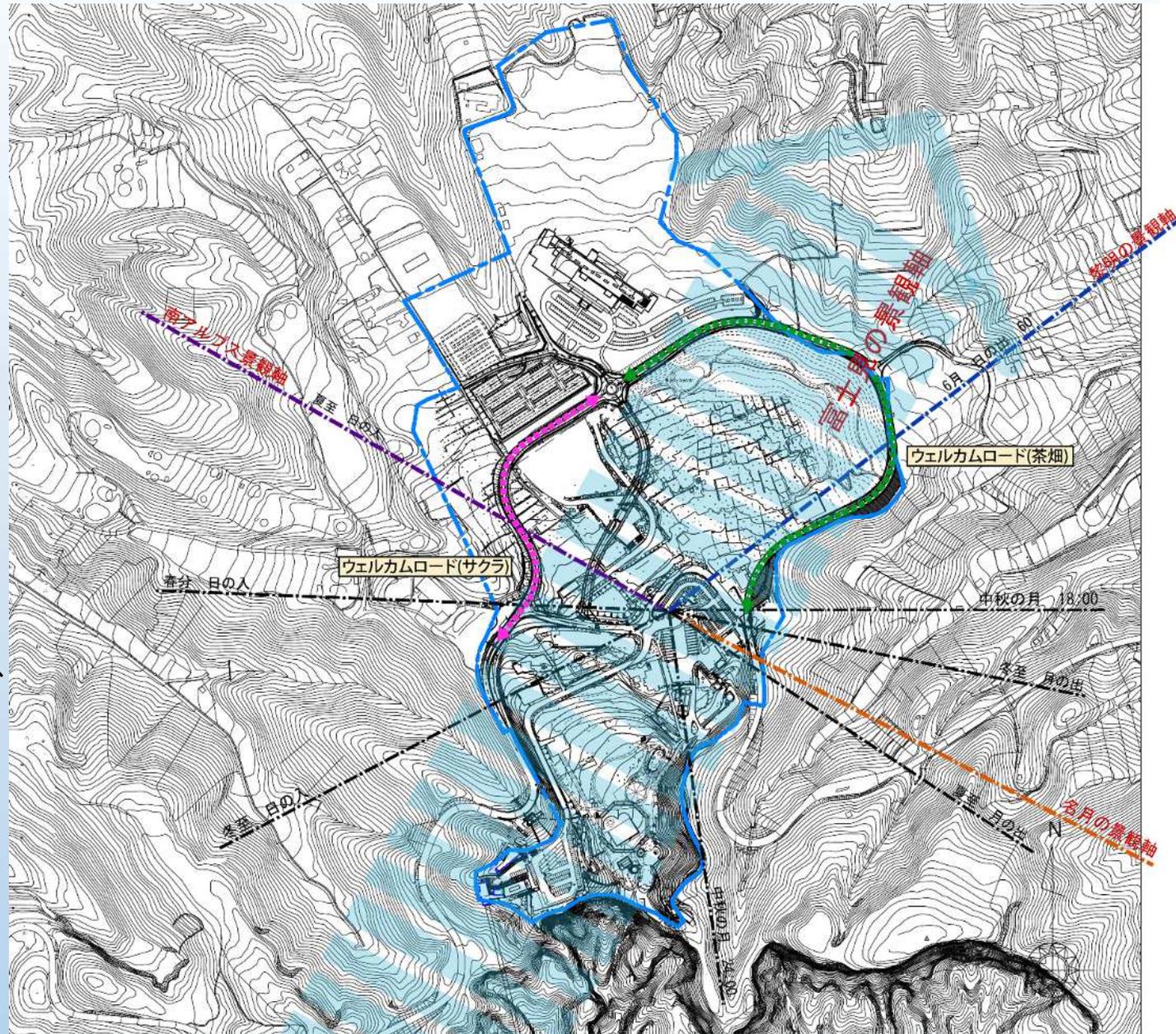
富士山に最も近い位置から日の出が見られる方向を景観軸として設定し、6月～7月の日の出前の黎明的な水墨景観を提供。(北より+60°)

#### ●名月の景観軸

富士見の景観軸とほぼ直角の方向が中秋の名月の20:00～22:00の方向と一致することから、月の出の方向を景観対象として設定。(北より+120°)

#### ●南アルプス景観軸

公園北西側に遠く続く南アルプスの山並みを景観対象とし、太陽の日の入りが最も南アルプス側で沈む夏至日の方向を景観軸として設定(北より-60°)



# V.空間の骨格構成

(参考)「富士見の視点場＝富士見八景」(※平成19年度基本計画再掲)



里の探梅(静岡の郷土と富士の景)



吟望の春爛漫(桜と富士の景)



駿河新緑の香(茶畑と富士の景)



日本平の薫風(公園展望と富士の景)



晩秋の枯野(神話と富士の景)



富士の暮雪(日本画と富士の景)



花苑の夕照(林床の彩りと富士の景)



清水湊の帰帆(清水港と富士の景)

# V.空間の骨格構成

## ② ウェルカムロード

本公園へのアクセス道路沿道の修景。静岡側からのアクセスはサクラ、清水側は茶畑を基本植栽種とし、パークウェイ利用者が各々のカーブを曲がった先から、公園への侵入感を演出する。

## ③ 絶景スポット

園内の移動長を考慮し、一定距離(概ね200~250m)を基準として休憩地としても利用できる視点場を配置。スマホでのVR視聴など、景色が見えない時の代替を併設。

**A.点的な視点場：**吟望台や夢テラス等の既存展望地や、回遊路上に新たに配置する休憩地等で、その場所で富士山やその他の風景を楽しむことのできる視点場

**B.線状の視点場：**パノラマ景を一望する視対象方向と直角方向に延長のある視点場

**C.室内からの視点場：**特に富士山が良く見られる冬季や、食事や喫茶を楽しみながらの展望など、主に観光利用を想定した視点場

**D.新たな視点場：**定点での四周眺望の可能性の高い有度山山頂(超然台)を新たな展望地に加え、吟望台と結ぶ吊り橋とともに、新たな観光コンテンツとして整備

## ④ 絶景ウォーク

本公園での主要レクリエーションメニューとした「四周眺望地を巡る散策回遊」を誘導していくため、各視点場間をつなぐ園路の沿道修景等、歩きながら風景を楽しむことのできるシークエンス景に配慮するとともに、景観軸等の景観のストーリー性に沿ったトレイルコースの設定や、サイン等による情報発信を行う。

## ⑤ 絶景プラス

本公園からの景観、特に前庭並びに中庭の各施設・園地からの富士山の景観は、概ね、どの位置からも類似した景観となる傾向にある。本計画では、各所への移動を誘導していくため、多様なレクリエーション施設やアクティブメニューを点在させる計画としているが、併せて視点場についても前景となる園地等の植物修景や、視点場のデザイン、ランドマークとなる構造物等を加えることで、視点場からの景観にバリエーションを持たせた計画を検討する。



前景の花畑(富士の花めぐりの里(裾野市))



展望デッキ(白馬岩岳マウンテリゾート)



ガンダムモニュメントと富士山(合成)

# (参考-1) パークアクセスモビリティ

資料8参照

## 1) 基本的考え方

- ① 将来的な自動運転の導入について、柔軟に対応できる可能性を確保しておく。
- ② 地元から要望されている清水側からの新規アクセス機能（新規ロープウェイ等）は、進捗を今後注視する。
- ③ 走行の安全性や自然環境や地域への配慮のため、パークウェイ等での自動車流入規制した上で、パーク・アンド・バスライドの導入の検討を行う。

## 2) 現状の交通環境

- ① 多くの利用者が自家用車、観光バスで来園。（ドア・ツー・ドアでの利用）
- ② 県中部5市2町（静岡市、島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町、川根本町）の広域アクセスにおける交通手段では、「自家用車」が77.9%で圧倒的に高く、鉄道が10%強で続く。
- ③ 公共交通機関としては、静岡側から日本平ロープウェイ駅間を結ぶ路線バス（9本/日）が運行（清水側は、運転手確保等の課題から、現在の運行休止中）。
- ④ クルーズ船の外国人利用者の多くは、寄港地ツアーの観光バスで来園。
- ⑤ 2024年「日本平まつり」において、東静岡駅周辺と山頂間でのパーク・アンド・バスライドを実施。
- ⑥ 自転車の活用では、観光基本計画や地元経済等で、体験コンテンツとしてのサイクリングツアーや、レンタサイクルスポットの配置による客船利用者等の利用を促し、回遊性を保ちながらサイクルスポットの拠点施設や仕組みづくりを提案。
- ⑦ MaaS、自動運転技術等の技術躍進が顕著。
- ⑧ 地元からの新規アクセス機能導入の要望あり。

## 3) パークアクセスモビリティの方向性

### ① 新たな交通環境への対応

自動運転や新規アクセス機能の設置等については、本計画中に時間軸を設定して反映させることは非常に困難であるため、本計画では、将来的な自動運転や新規アクセス機能の設置について、柔軟に対応できる可能性を確保しておくことが必要であると考えられる。

### ② パーク・アンド・バスライドの導入検討

地球温暖化ガスの排出抑制や自然環境の保全等に対応する自動車交通量の低減に向けた取り組み、パークウェイ利用者で本公園に立ち寄らない通過交通への対応、「日本平まつり」におけるパーク・アンド・バスライドを実施、等のことから、パークウェイ等での自動車流入規制した上で、パーク・アンド・バスライドの導入の検討を行うことが必要であると考えられる。

## 4) 車両によらないパークアクセスモビリティ

### ① サイクリングロード

有度山南側の海岸線を南安倍川橋から三保飛行場まで結ぶ自転車専用道路。登呂遺跡、久能山東照宮、三保松原の至近を經由し、有度山南岸では、いちご街道に沿って敷設されている。

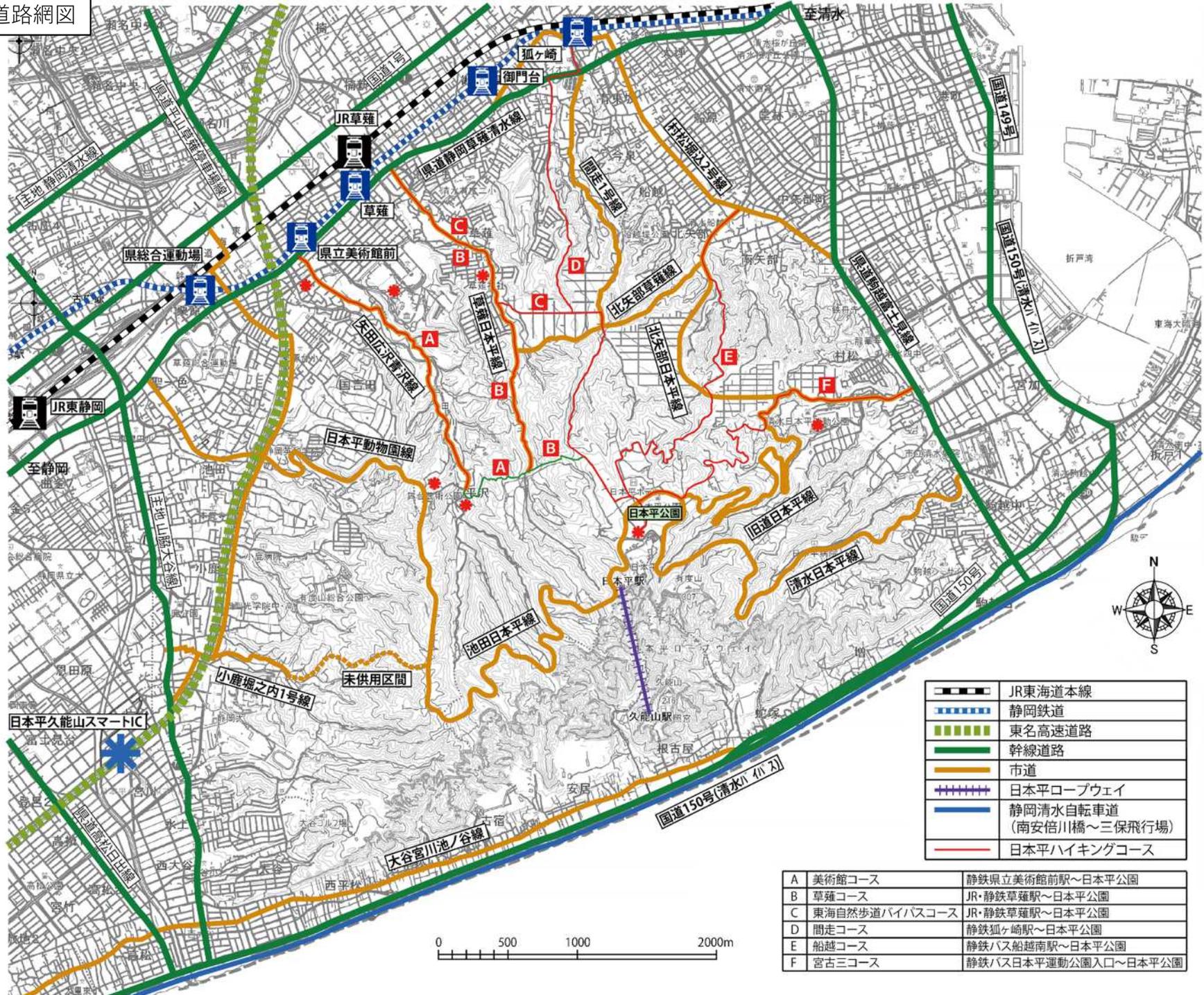
静岡中心市街地や駿府城、清水中心市街地や清水港とのルート設定により、自動車によらない観光周遊コースとして利用できる可能性がある。

### ② 日本平ハイキングコース

有度山の県立自然公園内には、山麓の交通起点から古刹や文化施設等を結ぶ6つのハイキングコースが設定されており、ハイカーを中心に一定の利用がある他、ウォーキングイベント（日本平ウォーク）も開催されている。

公道を含め、概ね、道路としての形態を整えており、徒歩によるハイキングだけでなく、サイクリングルートとしての活用が考えられる。傾斜勾配があるため、一般の自転車の走行は難しいが、一部、階段や狭小箇所改修等により、Eバイクでのサイクリングや日本平への新たなアクセスコンテンツとしての利用が考えられる。

図. 有度山周辺道路網図



## 【主要トピックス】

- ・静岡県次世代エアモビリティ（eVTOL）導入促進のロードマップの公表
- ・清水港周辺での自動運転実験・調査の実施等
- ・清水港寄港クルーズ船大幅増
- ・清水地区地元団体（魅力ある清水を創る会）による開発等の整備要望
  - ① 清水側から日本平におけるアクセス（新規ロープウェイ）の提案
  - ② 久能山東照宮整備に対する要望
- ・第39回日本平まつり開催（シャトルバス輸送）
- ・「駿河湾・海洋DX先端拠点化計画」地方大学・地域産業創生交付金事業に採択
- ・「令和6年度清水港貝島地区土地利活手法調査業務」公募型プロポーザル実施
- ・「～霊峰富士を仰ぐ～ 日本平ウォーク2025」の開催

## 【参考】

- ・日本平久能山スマートIC周辺の大規模開発
- ・トヨタ自動車による実証都市「Woven City（ウーブン・シティ）」
- ・「静岡市アリーナ整備事業PFI等アドバイザー業務」プロポーザルの実施

# 日本平公園基本計画改定専門委員会の今後の予定（案）

## 第4回基本計画改定専門委員会 論点 ～公園計画の改定内容ついて～

- 施設配置計画、動線計画、施設計画、景観計画等の設定
- 公園整備に向けた事業計画の設定
- 「観光振興地域づくり」に繋がる管理運営・公園利活用方法の設定
- 保全すべき森林景観や茶畑の景観保全に資する仕組みの設定



## 第5回基本計画改定専門委員会 論点 ～ まとめ ～

- これまでの議論による改定計画案の内容確認と審議
- 引き続き検討すべき事項の確認